

本のある暮らしを



なないろ山のひみつ

征矢かおる著



なないろ山のふもとに住むさち。ある日、なないろ山から赤い光が出ています。なないろ山に何か異変が起きたようです。次々といるいるな色の光が現れては消えていく中を、さちはじいさんづつねが待つ滝へと急ぎますが…。果たして、さちは、なないろ山の危険を救うことができるのでしょうか。そしてなないろ山の「ひみつ」とは…。

なないろ山のひみつ

本川根小学校一年
中村陽南



なないろ山ってどこにあるのかな？わたしのいえから、かわのむこうにみえる山も、いろいろないろになるよ。はるからなつにはきれいなみどりいろ、あきになるとあかやさいるやおれんじいろにへんしんする。ときどき、やまのあいだからみずがおちて、しろいたがみえることもある。わたしは、まだその山にのぼったことはないけれど、なないろ山とにているじやないかなあ。

さちは、山のきやどぶつたちとはなじができてすごいね。なないろ山はいきているんだとおもうよ。でも、なないろ山が、びょうきになっちゃった。山から、ふしぎなひかりがにげだしてね。山のみずが、すっかりかれて、どんぐりがなくなっちゃったたり、じ

いのちはみえるよ

中川根第一小学校二年
山本愛佳



いのちが見えるって、どういうことかなあ。いのちって何だろう。心のことかな。それとも、しんぞうのことかな。わたしは、いのちのことをもっともっと知りたくて、この本が

読みたくなったんだよ。

目の見えないルミさんが、赤ちゃんを生むなんてすごいよぶかな。とても心ばいたよ。だって、もしわたしの目が見えなかったとしたら、あるくことも大へんだし、みんなのかおも見えないから、すごくふあんだよ。

でも、ルミさんは、いつもニコニコで、赤ちゃんが生まれてくるのをたのしみにしていたね。生む時は、おなかがいいたそで、わたしまでなきそうになっちゃった。でも、ぶじに生まれたから、「ヤッター」って思ったよ。ルミさんの目ってすごいね。見えないはずなのに、何でも見えるみたいだよ。赤ちゃん

最近「活字離れ」「読書離れ」という言葉をよく耳にしませんか。テレビやインターネットなど情報を得る手段が多様化し、暮らしの中で「読書」をする機会が減ってきています。町営図書室の本の貸出件数も年々減少傾向にあります。しかし読書はテレビを見るのとは違い、自分で想像力を働かせることでどんな物語をふくらませることが出来ます。「主人公はどんな顔をしているんだろう」「この本の舞台はどんな町なんだろう」…。自然と感性が磨かれ、表現力や想像力が豊かになります。テレビなどにはない「読書」の大きな魅力です。

本号では、町民読書感想文コンクール特選作品の紹介に併せて、題材となった本の紹介も掲載しました。感想文を書いた子どもたちは、どんな本を読み、どんなことを感じたのでしょうか。楽しかった本、笑えた本、考えさせられた本、涙が止まらなくなった本…。どの子の感想文も「自分だけの1冊」に出会えた喜びにあふれています。

本町には、そんな素敵な本に出会える環境があります。ぜひあなたも、自分だけの1冊を見つけてください。

文化会館図書室貸し出し数

平成18年度1,757冊
平成19年度1,407冊
平成20年度 813冊
(11月末現在)

山村開発センター図書室貸し出し数

平成16年度2,268冊
平成17年度1,968冊
平成18年度1,886冊
平成19年度1,212冊
平成20年度 788冊
(10月末現在)